

第6回徳島市男女共同参画推進ネットワーク 議事録(概要)

日 時 令和6年11月20日(水) 13:30~15:00
場 所 ホテル千秋閣 6階 孔雀の間
出席者 16名(委員名13名、事務局3名)

【次第】

- 1 開会
- 2 新委員紹介
- 3 議題
 - (1) 令和6年度事業の取組状況について
 - (2) 令和7年度事業(案)について
 - (3) 意見交換
- 4 その他
- 5 閉会

【意見交換・質疑応答の概要】

A 委員： アンコンシャスバイアスは小学校・中学校の時から体に染み入るようについてくるものだと思うので、実施校数を増やしたり、全校で実施することはできないのか。また、教職員に対する研修や、教職員の中でのネットワークづくりは何かしているのか。

事務局： 来年度も2校で実施としているが、希望する学校が多ければ、予算の範囲内でできるだけ多くの学校で実施したい。また、教職員や保護者の方にアンコンシャスバイアスについて理解いただくことが大事だと思うので、授業の実施校だけでなく、すべての学校の教職員や保護者を対象にしたセミナー実施についても検討したい。

B 委員： アンコンシャスバイアス授業は徳島市内の全校・全生徒に同じように提供してほしいが、まず、教職員に基礎を学んでいただき、それを学級会などで話し合うと、全生徒に行き渡ると思う。

アンコンシャスバイアスセミナーやDV啓発セミナーで、男女共同参画への理解が深まらなかった方がいたが、なぜ男女共同参画への理解が深まらなかったのかを分析して、次の課題にするといいのではないか。

事務局： アンコンシャスバイアスは、ジェンダーのことに限らないので、セミナーでアンコンシャスバイアスに対する理解は深まったが、特にジェンダーについてはそれほど深まらなかった方もいたのかと思う。DVについては、精査中である。

C 委員： DVセミナーで理解が深まらなかった理由について、身体的な暴力だけでなく、経済的、精神的暴力もDVだが、それをDVだと思っていない人が一定数いて、100%納得できなかったのかもしれない。

- D 委員 : DV セミナーの男女共同参画への理解度 72.7%について、どの部分の理解が不足していたのかを分析して、今後の事業に生かしていきたい。
- E 委員 : DV について、最近では、女性から男性への暴力もあると聞いている。女性へのDVだけでなく、女性からのDVに対する勉強もしていかなければならない。
- B 委員 : 子どもは自分がしていることが暴力なのかどうか分からないこともあると思う。小さい時からDVについての知識を身に付けていくことが大事だと思うので、小・中学校でもDVの授業もするといいいのではないかな。
- F 委員 : 防災ワークショップについて、男女共同参画という点から、「女性ならではの視点で」という文言に違和感を覚えた。「女性ならではの」があるのであれば、「男性ならではの」のワークショップもあってもいいのではないかな。
- 事務局 : ご家庭に小さいお子さんや、介護が必要な方がいる場合などに、日常、どのようなことに気をつけて、どのような物を揃えておけばいいのか、ワークショップで学ぶことができないかと考えている。また、避難所運営など、男性が中心になっていることが多いので、女性の目線で、プライバシーの保護や、トイレの問題、暴力の防止なども一緒に考えていきたいと思っている。ネーミング、言葉の使い方については考えていく。
- D 委員 : 避難所運営の計画は、男性の視点が中心となっていて、女性のことをあまり考えていなかったが、今では意識が変わってきて、女性の視点を男性の視点と同じ水準にしようとしている。水準を平等にするための女性の視点という意味合いだと理解いただきたい。
- G 委員 : 早く「女性活躍」という四字熟語がなくなればいいと思う。
- A 委員 : 防災訓練や避難所開設・運営訓練の参加者は90%が男性で、女性としての意見が言いにくい。女性が防災訓練や避難所開設・運営訓練に行こうと思えるような、その前段階のワークショップをしてほしい。
- H 委員 : 地域には男女共同参画がまだまだ浸透していないと思う。地域でも男女共同参画についての研修会・学習会を進めていくのはどうか。
- I 委員 : 私たちは地域福祉を推進している団体で、地区社協に社協の職員が行って事業を展開しているが、可能であれば一緒に地域学習会に参加したい。
- J 委員 : 「婦人会」という言葉に違和感がある。婦人会は全国的な組織だから簡単には変えられないと思うが、変えていただくような方向でいけたらいいのではないかなと思う。
- G 委員 : ネーミングはすごく大事だが、それをやりすぎると今度は言葉狩りになってくるので難しいところだ。
- K 委員 : 女性が働くには仕事においても家庭においても男性の協力が必要だ。チーム育児応援セミナーで、時短で簡単にできるような料理講座もあれば役に立つと思う。

- F 委員 : 大学を卒業した後、県外に出ていく学生が多いが、学生が徳島で働きたい、女性が徳島に残りたいという強い思いを抱いてもらえるような取組が必要なのではないか。徳島県内の企業の経営者を対象とした男女共同参画の学習会やセミナーがあればいいのではないか。
- 事務局 : 今年度は6月に経営者等をメインターゲットとしたアンコンシャスバイアスセミナーを実施したが、現段階では、来年度は特に経営者向けのセミナー等は予定していない。検討させていただきたい。
- C 委員 : 今、徳島県は、人材の流出、特に若い女性の県外流出が激しいが、就職できる企業が少ないというのが一番大きい原因なので、アンコンシャスバイアスや固定的性別役割分担意識の解消など、企業の方の意識を変える取り組みを進めて、女性に選んでももらえるような徳島県にしていきたい。
- J 委員 : 経営者の方も男女共同参画のことをよく勉強して意識改革をし、男性も女性も徳島に残ってもらえるようにしたい。
- L 委員 : 男女共同参画の取組を多く方に知ってもらうために、スーパーやコンビニなど、みんなが頻繁に気軽に行くような所にチラシを置かせてもらえば、幅広い方に見てもらえると思う。
- G 委員 : ATMは多く方が利用するので、ATMにチラシを置かせていただくなど、いろんな機関が協力いただける範囲で得意分野の情報発信方法を取っていただければ随分変わってくると思う。
- M 委員 : SNSのアルゴリズムは、同質性の高い情報が何度も流れる仕様になっていて、若者にボランティアに来てほしいときは、高校生や大学生が情報発信すると、若い人がたくさん集まる。集めたい顧客に向けての発信をする情報特化型の大学生インターン等を雇うといいかもしれない。
- 事務局 : 公共施設、関係団体、連携協定締結相手方等へのチラシの配布や、広報とくしま、ホームページ、SNSの投稿、デジタルサイネージ等、思いつく限りの方法で情報発信をしているが、ご意見を参考に工夫していきたい。
- M 委員 : 男女共同参画センターではさまざまな気付きを与える意識改革事業を実施し、その先の行動変革へとつなげる方針だと思うが、セミナー等で気付きを得た参加者に、自身が所属するコミュニティの中で男女共同参画の行動変革を起こしてもらい、それをサポートするのが男女共同参画センターやこのネットワーク会議の委員の役割だと思う。この会議にはそれぞれ専門性をお持ちの方が集まっているので、市民が行動変革を起こすためのネットワークングやプログラム作りのサポートをすることで行動変革につながるのではないかと思う。